

令和5年度 江別市学校教育基本計画（第2期）推進状況報告書

計画期間 令和元年度～令和5年度

基本理念：心豊かに学びともに未来のふるさとを拓く子どもの育成

目指す子ども像：夢を持ち、夢を語り、夢の実現に向けて行動する子ども

子ども一人ひとりに定着すべき資質・能力の育成、教育環境の整備、学校・家庭・地域との連携協力の観点から、4つの基本目標に基づき、計画を推進しています。

基本目標1：確かな学力を育成する教育の推進

【基本目標1で目指すこと】
これからの知識基盤社会の時代を、子どもたちが主体的、創造的に生きていくためには、基礎的な学力とともに、応用力や発展的な学力を身に付けることが必要です。このため、学校教育においては、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、それらを活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の確かな学力を育むことを重視した指導の充実を図ります。
また、コミュニケーション能力を高め、国際社会を主体的に生きる力を育成するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた指導や支援を行う特別支援教育の充実を図ります。

◆成果指標1－① 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒の割合

現状値（H29年度）	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R5年度）
74.0%	75.3%	—	80.1%	78.6%	82.2%	→

指標：全国学力・学習状況調査

◆成果指標1－② 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合

現状値（H29年度）	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R5年度）
75.9%	74.1%	—	72.4%	71.5%	73.4%	→

指標：全国学力・学習状況調査

◆成果指標1－③ 通常学級に在籍し、学習や行動面で困難を示す児童生徒の個別の教育支援計画を作成している学校の割合

現状値（H29年度）	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R5年度）
66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	→

指標：江別市教育委員会調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

・指導主事が学校を訪問し、各学校が作成した「学校改善プラン」へ指導・助言を行うなど、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善に取り組みました。
・学習サポート教員や外国語指導助手を全小中学校へ派遣したほか、学校のニーズに応じてボランティアを派遣し、きめ細かな指導体制と国際理解教育の推進のための人的支援に取り組みました。
・個別の教育支援計画については、各学校において、通常学級の児童生徒も含め、児童生徒一人ひとりのニーズに応じ作成したほか、特別支援教育支援員の配置の拡充や、特別支援学級等の環境の整備など、特別支援教育の充実を図りました。
・成果指標1－①と②は、前年度を上回り、①と③は目標を達成しました。きめ細かな学習支援やキャリア教育により、学ぶことに興味を持つなど、主体的な学びの醸成が図られていると考えられます。
・次期計画においても、サポート教員などの人的支援を継続するとともに、子どもたちが夢や目標を持ち、自分らしい生き方を実現する力をより一層身に付けられるよう、キャリア教育の充実を図ります。また、ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、確かな学力の定着を図る教育を推進していきます。

基本目標 2：豊かな心と健やかな体を育成する教育の推進

【基本目標 2 で目指すこと】

家庭や地域の教育力の低下とともに、規範意識や人間関係の希薄化が指摘されています。一人ひとりの多様な個性に応じたきめ細かな指導を行い、子どもたちに基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識を高めるとともに、自らを律しつつ他者を思いやる心や感動する心などの豊かな心を育むことが必要です。このために学校では、家庭や地域と連携し、学校の教育活動全体を通じた道徳教育や自己肯定感を育む体験活動、読書活動の充実を推進します。

また、子どもたちの体力向上の取組、健康教育、食育の充実により、子どもの心身の健康の保持、増進を図ります。

◆成果指標 2－① 自分には、良いところがあると思う児童生徒の割合

現状値（H29年度）	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	目標値（R 5 年度）
70.4%	73.6%	—	73.9%	77.5%	83.4%	→

指標：全国学力・学習状況調査

◆成果指標 2－② 運動が好きな児童生徒の割合

現状値（H29年度）	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	目標値（R 5 年度）
87.1%	87.5%	—	83.2%	85.4%	85.8%	→

指標：全国体力・運動能力、運動習慣等調査

◆成果指標 2－③ 朝食を食べて学校に通う児童生徒の割合

現状値（H29年度）	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	目標値（R 5 年度）
94.5%	93.6%	—	92.9%	92.9%	91.6%	→

指標：全国学力・学習状況調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

- ・全小中学校に小中一貫教育を導入し、自己肯定感や自己有用感を向上させるため、学校では一人ひとりの良さや可能性を見つけて伝え、小中 9 年間を通じた様々な異学年交流の取組を進めました。
- ・人への思いやりや規範意識を育むため、教育活動全体を通じて道徳教育を推進した他、様々な体験活動を行うなど、引き続き豊かな心と感性を育むための教育を実践しました。
- ・体力向上においては、体を動かすことが楽しいと感じられるよう、小学校で市内大学と連携しながら体力向上プログラム出前授業や、正しい走り方を身に付けるための「走り方教室」を実施しました。
- ・学校と家庭等が連携して、子どもの生活リズムの改善に取り組めるよう、啓発用リーフレットを小学校 1 年生の全家庭に配布したほか、「食育弁当の日」など食に関する指導を実施しました。
- ・インターネットの不適切な利用によるトラブル等から子どもたちを守るため、平成 29 年に市内の中学生が自ら定めた「えべつスマート 4 RULES」（スマホ・ネットの共通ルール）を掲載したクリアファイルの児童生徒への配布や、就学時健診において未就学児童の保護者への情報モラル啓発リーフレットの配布、市内全小中学校での情報モラル講演会の開催など、情報モラルの普及啓発を行いました。
- ・成果指標 2－②・③は目標をわずかに下回りましたが、成果指標 2－①は前年度を上回り目標を達成しました。自己肯定感等が高まる体験型の取組や生活習慣の変化などの影響が考えられます。
- ・次期計画においても、道徳教育や体験活動の充実、運動に親しむ環境づくり、子どもの生活リズムの向上、食育の取組等により、引き続き子どもの心身の健康の保持・増進を図っています。

基本目標 3：良好な教育環境の整備

【基本目標 3 で目指すこと】

子どもたちが未来への夢や希望を抱き、心身ともに健やかに成長するためには、安全・安心とともに、多様な可能性を伸ばす教育環境を整備することが必要です。そのためには、子どもたちを事故や犯罪などから守る安全教育や安全対策を推進するとともに、安全な学校施設の維持保全、多様な学びに対応できる施設設備の整備のほか、学びのセーフティネットの充実などを進め、教育環境の整備を図ります。

◆成果指標３－① 教育用タブレット型パソコンを整備している学校の割合

現状値（H29年度）	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度	R５年度	目標値（R５年度）
34.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	→

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標３－② 学校図書館図書標準を達成している学校の割合

現状値（H29年度）	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度	R５年度	目標値（R５年度）
23.1%	52.0%	48.0%	60.0%	76.0%	88.0%	→

指標：江別市教育委員会調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

- ・全ての児童生徒に１人１台端末を整備したほか、GIGAスクールサポーターによる巡回支援や江別市教育情報化ガイドラインの活用などにより、さらなるICT教育環境の充実に取り組みました。
- ・学校における読書活動の充実については、学校図書館の蔵書率向上に取り組むとともに、学校司書の巡回配置に加え、短期間の集中的な支援によって環境整備を進めたほか、児童生徒の朝読書や調べ学習などの教育活動の支援に取り組みました。
- ・成果指標３－①については、パソコン教室に配備している教育用コンピュータ機器を平成２７年度からタブレット型パソコンに更新しており、令和元年度をもって市内小中学校の教育用タブレット型パソコンの整備は全て完了しています。
- ・成果指標３－②は、図書標準を達成する学校が増加し目標を達成しています。
- ・次期計画においても、学校のICT環境整備や学校図書館の蔵書整備を継続することに加え、就学援助の実施や相談支援体制の充実を図ることで、良好な教育環境の整備を進めています。

基本目標４：地域とともにある学校づくりの推進

【基本目標４で目指すこと】

子どもたちが豊かな人間性を持って成長するためには、自制心や忍耐力といった非認知能力を培うための環境づくりが必要です。そのため、学校は、子どもたちが地域社会の中で多様な人々と関わり、多様な価値観に触れ、様々な経験を重ねていくことができるよう、家庭や地域との連携を強化し、地域とともにある学校づくりを進める必要があります。

また、その連携の土台となる家庭、地域から信頼される学校づくりを実現するために、学校の組織運営体制を充実するとともに、教員が自らの資質や能力の向上に努め、教育活動の改善を図ります。

◆成果指標４－① 学校、家庭、地域が連携していると思う市民割合

現状値（H29年度）	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度	R５年度	目標値（R５年度）
79.8%	80.5%	75.9%	74.7%	75.7%	77.6%	→

指標：江別市まちづくり市民アンケート

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

- ・学校支援地域本部を通して、地域の方がボランティアとして学校での教育支援に係る取組を進めました。
- ・ホームページによる学校の取組紹介や、学校評価を基に保護者や地域住民等の意向を踏まえた学校運営を行い、地域一体型学校の顔づくり事業を実施しました。なお、コロナ禍において中止又は公開時間を短縮していた学校一斉公開について、新型コロナウイルス感染症が５類感染症に位置付けられたことから、令和５年度は従前どおり実施しました。
- ・学校・家庭・地域が連携・協力して、子どもを育てる持続可能な仕組みを持った学校づくりを行うため、市内全小中学校でコミュニティ・スクール事業を実施しました。
- ・成果指標４－①は、前年度を上回りましたが、コロナ禍以降、現状値を下回っており目標をわずかに下回りました。
- ・次期計画においても、これまでの取組を継続するとともに、学校・家庭・地域が一体となって、義務教育９年間を通して目指す子ども像の実現に向け小中一貫教育を推進してまいります。